

Departure OC I Revised Edition

CALL 教材化で生徒の力を引き出す

山崎 等



札幌清田高校では CALL (computer-assisted language learning) システムを用いて OC I (2 単位) の授業を行っています。1 年生のクラスを 2 分割したうち的一方 (20 名) は CALL 教室で日本人教員による *Departure Oral Communication I* を用いた授業を受け、残りの 20 名は HR 教室で日本人教員と ALT のティームティーチングによる communication lesson を交互に受けます。OC I の授業では指示、説明はできるだけ英語で行っています。*Departure* を使用する CALL 教室での授業の特徴は、教材提示装置で取り込んだ画像をセンターモニターに映しながら CD プレーヤーの音を聞かせて Listening Comprehension や Task 活動を行わせる等、視覚、聴覚両面で英語を学ぶことです。

教科書を学んだ後、Dialog や Pronunciation のコーナーを基にして、以下のような自主教材を作成して生徒が各自のペースで音声学習をできるようにしています。

◆ *Departure* の活用例 (CALL)

CALL では、各生徒が図 1 のような画面を見ながら学習します。生徒はこの画面を見ながらボックスの中身を聴き取り、キーボードで答えを入力します。そして 1～10 まで解答し、解答 send をタッチすると次のページになり○×と正解が示されます。何度でも聞き返せます。(図 1 の「解答 Send」マークのすぐ上の (10) は配点が 10 点であることを表す。)

不得意な生徒は何度でもプレイボタンを押して

Lesson 10 Dialog

適語を入れなさい。

L: I sometimes see Japanese students smile when they can't 1 _____ in class. I think that's very 2 _____.

K: Oh, I see. Well, 3 _____ would you feel if the door of the train 4 _____ just before you got on it?

L: Uh...I would be very 5 _____.

K: I would be, too, but I would probably smile.

L: Why? Do you think your 6 _____ is funny?

K: No, 7 _____. We often smile in 8 _____ to 9 _____ our embarrassment.

L: You smile if you miss the train. That's really interesting. What would you do if you caught it?

K: Of course, I'd smile 10 _____!

1.(10) 2.(10) 3.(10) 4.(10) 5.(10) 6.(10) 7.(10) 8.(10) 9.(10) 10.(10)

解答 Send

図 1 CALL 画面

繰り返し学習が可能です。生徒の反応も良好です。理由としては一斉授業と違ってわからない箇所は繰り返し聞け、自分にとって簡単な箇所は一回で通過できるため自分のペースで理解できるからだと思います。

◆ *Departure Lesson1* を基本にした練習プリント

発音練習プリント (図 2) ではまず Step 1 で発音の説明と実演, Step 2 でゲーム的に教員がそれぞれの山の発音を連続で発音し何番に行き着くかの聞き取りに生徒が挑戦します (例えば bad-land-man-sad-1 となるわけです)。

Step 3 では教員が Tom か Sally を選んで ket-tle か cattle を見ている, または pen か pan を欲しがっているという文を読みます (例えば Who wants a pen? に対し Tom wants a pen. Sally wants a pan. と発音されると答えは Tom)。

このプリントは *Departure* の Lesson 1 を学習

OCI Pronunciation Lesson 1: /æ/ e /

Step 1: Use your mouth!

/æ/

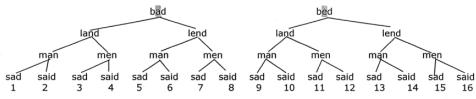


/e/



/æ/ and /e/ = /ε/

Step 2: listening game



Step 3: Practice makes perfect

Tom		
Sally		

Ask the questions: Who is watching the kettle/cattle?
Who wants a pen/pan?

図2 Pronunciation プリント

した後、応用、定着を図るための練習プリントです。このような補助プリントを随時作成し、教科書の練習を行っています。

◆Departure に関連した HR の Activity 例

例えばある日の HR での Communication Activity では、How often do you ...? のパターンを使ってクラスのできるだけ多くの友人に話しかけ、always ~ never の分布をつけ、その結果を発表するというシンプルな活動を行いました。この activity だと生徒は必然的に歩き回り、対話練習を多く行うことになります。ALT の先生も混じって全員がとても活発に動き回ります。

CALL で Departure を使って基本表現を練習し、それを教室での Communication Lesson の中で活用します。2つの活動が連動するわけです。

本校の OCI の1年間の大きな流れとして、20

名ずつのグループ A, B で活動する期間と、40名で以下のプロジェクト活動①～④をする期間に分かれています。プロジェクトの期間は40名全員が CALL に入り JTE 2人と ALT の指導を受けます。具体的には次のようになっています。

- ① Show & Tell (英語による自己紹介)
- ② Country Project (各生徒が一国を選んで英語で紹介する)
- ③ Japan Project (各生徒が日本文化の中から紹介するものを1つ選び英語で発表)
- ④ Guest Teachers Day (3月中旬に外国の方20数名を招き、③の内容を中心とした会話の実践練習の日を設定し、異文化交流を行う)

①～③のプロジェクトは、生徒が原稿を英文で書き、先生や ALT に添削してもらい、第2版を Word で作成、もう一度添削してもらい、最終版へと仕上げます。そして各自練習→暗記→JTE, ALT による発音指導を経て発表の日を迎えます。特に③の Japan Project は3か月の時間と労力をかけ、ほぼ全文を暗記してくる生徒もあり、④の本番でうまくいくと、ああ1年間がんばってきたよかったと思える瞬間となります。

④の Guest Teachers Day は、Japan Project のプレゼンテーションで会話が始まります。visual aid も使って日本と guest のそれぞれの国の行事を写真やパソコンの画面などを見ながら話すとどんどん会話も盛りあがります。あるグループでは guest の国の写真を見たり、現地の料理をご馳走になりながら会話を楽しんでいました。

1年を通じて Departure で基本表現を学び、総合的に学力をつけることを本校の OCI における英語学習の大きな柱としています。

Departure ではさまざまな場面での表現を学び、その音声面での演習(リスニング、ペアワーク)もできるため読む、書く、聞く、話すの4技能をバランスよく学ぶことができます。

(やまざき ひとし・札幌市立札幌清田高等学校教諭)